

保育者の生活時間に関する実態調査

——保育者の精神衛生(三)——

日本保育学会
第七回大会研究発表

頌栄短期大学 西 本 脩

ま え が き

保育者になりたいという人の動機を聞いてみると、中には「幼稚園は勤務が楽だから」と云う者もあり、世間一般でも、保育者は小さい子供を相手に遊んでおればよいし、子供を昼頃か遅くて二時頃に帰してしまえば、それで終りで、楽な仕事と考えている人が多い。果して保育者の勤務はその様に楽なものであるうか。また一方、現場の保育者の口からは、「私達の仕事は過重である」と云う声をよく聞く。そして一園あたりの保育者の定員数を増す事とか、事務職員を置く事などが要望されている。事実、保育者は幼稚園、保育所の諸事務と各種の雑務におわれて、一人一人の幼児に対する保育指導が時間的にも精神的にも圧迫を受けている様である。

それでは実際には、保育者はどの様な仕事にどれだけの時間を費しているのだろうか。その実態を知る為に、この調査を行った。勿論、仕事の負担は、その仕事に費した時間の量だけできめる事は

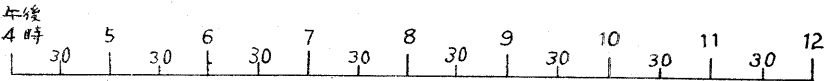
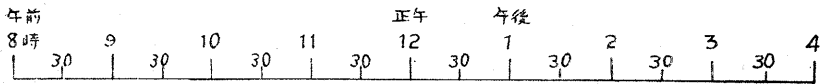
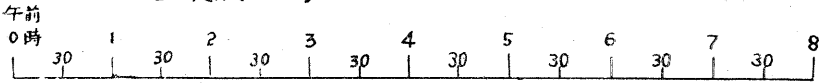
出来ない。たとえ同じ量の仕事でも、保育者各人の能率によって、時間の差があるだろうし、同じ時間量でも、個々の仕事の難易の度などによって、精神的負担に差異があるだろう。しかしながら、時間量によって、仕事の負担の一般的な傾向を知る事が出来るし、また保育者の生活内容にどんなものがあり、それにどの程度の重みがかけられているかという事を知る事も必要であると考えられる。従って、この調査においては、保育者の一日の生活の実態を、主として時間量の面から見る事にした。

調査の方法

調査票 保育者の生活の実態に触れるために、図のような、十分単位に区分した「生活時程記録票」を作り、保育者各自の一日中の生活をそのまま記録してもらった。特に、ふだんのままの生活を、ありのままに記録するようにと依頼した。尚、併せて、保育者の年令・配偶者の有無・子供の有無などを記入してもらった。

生活時程調査票

月 日 曜日 天候()



調査期日

保育者の生活内容及び時間は、日により、季節により、変動のあることが当然考えられるので、理想的には、各季節にわたって、しかもかなり長期間継続して調査すべきであるが、それは種々の事情により困難なため、今回は幼稚園・保育所の特別行事のない平日（平常通りの保育のある日）を選んで、各自任意の二日間を記録してもらった。又平日の生活と比較対照するために、休日の日をも併せて記録してもらった。その時期は、昭和二年一月中旬から四月中旬にわたっている。

調査の対象

全国の保育者のしっかい調査は不可能なため、地域、公私立の別などを考慮して、なるべく各種の幼稚園・保育所に勤務している保育者を選ぶようにした。神戸市、西宮市、姫路市、明石市、尼崎市、芦屋市の公私立幼稚園五〇園、保育所二二施設を選び、各施設の教諭・助教諭・保母合計三五〇名に前記の調査票を三部ずつ配布した。記録をよせられたものの中には、三日とも記録したものもあり、二日間あるいは一日だけのものもあった。またそれらの中にも、記入の不備なものや、信頼性の疑わしいものがあり、それらを除いたので、実数は第一表の如く、平日延三二五名、休日延一六二名となった。

結果の概要

保育者の一日の生活内容には、きわめて多くの種類があり、各種の観点から種々のまとめ方が考えられるが、ここでは一応便宜上、次の様に分類した。

一、職務時間……保育者としての職務の活動に費される時間であ

第I表 A

	20才以下	21—30才	31—40才	41才以上	不 明	計
公 幼	14人	71人	22人	6人	7人	120人
私 幼	2	16	3人	0	0	21
保	1	13	2	3	0	19
計	17	100	27	9	7	160

B

	配 偶 者 の 有 無				不 明	計
	未 婚	有	離 別	死 別		
公 幼	57人	34人	5人	15人	9人	120人
私 幼	13	6	0	1	1	21
保	12	4	1	0人	2	19
計	82	44	6	16	12	160

C

	子 供 の 有 無		不 明	計
	有	無		
公 幼	37人	74人	9人	120人
私 幼	4	16人	1	21
保	3	15人	1	19
計	44	105	11	160

A, B, Cは調査人員
実数Dは調査人員延数

D

	平 日	休 日	計
公 幼	229人	119人	348人
私 幼	48	24	72
保	38	19	57
計	315	162	477

る。これを更に次のように分類する事が出来る。

A、保育指導時間……直接、間接に幼児の指導をする時間

a、直接保育に当る時間

b、保護者との応接

c、家庭訪問

B、園務時間……担任の組や園全般に関する事務及び作業の時間

d、組の事務……保育日誌をつける事、保育料の収納など

e、組の作業……保育室の整理掃除、子供の見送りなど

f、打合せ職員会議

g、園の事務……帳簿、報告書作製、諸届など

h、園の作業……園の掃除、謄写印刷、動植物の世話など

C、準備時間……直接当面した保育のための準備の時間。保育案

を立てる事、手技材料を用意しておく事など

D、研修時間……広い意味では、準備時間に入るかも知れない

が、保育者の資質を向上するための研修の時間

i、園内研究

j、園外研究……研究保育参観、研究会等

k、通信教育、レポート作製

l、認定講習、夜間学部、講習会

m、自己研修

二、非職務時間……保育者としての職務を離れて行われる活動の時

間。したがって、保育者であるか否とにかかわらず、この時間の活

動の種類は同じである。

い、常規……日常の生活において習慣となつていているもの

イ、睡眠

ロ、食事

ハ、身仕度……洗面、着衣、入浴、美容等

ろ、家事労働時間

ニ、炊事……調理、後片付けなど

ホ、買物

ヘ、裁縫……つくろいもの、縫物、編物、アイロンなど

ト、洗濯

チ、掃除

リ、授乳、託児

ヌ、子供の相手……世話

ル、その他の家事雑用……飼育栽培その他

ハ、文化的時間

ヲ、新聞

ワ、ラジオ

カ、読書

ヨ、書きもの……日記家計簿など

タ、趣味……おけいこことを含む

レ、宗教礼拝、勤行など

に、社会的時間……社交、交際のための時間

ソ、会合……集会

ツ、訪問……応接

ネ、手紙

ナ、組合活動

ほ、リクリエーション時間

ラ、休息・雑談

ム、娯楽

ウ、運動・散歩

キ、喫茶・飲食

へ、その他……外出時交通時間、医療など

三、準職務時間……職務、非職務両時間の中間的性格を持つ活動時間、主として

と、通勤時間

次に、以上の分類に従って、結果を順次、簡単に述べてみよう。

一、就寝・起床時刻及び睡眠時間について

公私立幼稚園教諭及び保育所保育母の平日及び休日における就寝時刻、起床時刻の平均及び平均偏差(M・V)を示すと、第二表の如くなる。この表によってみると、

1、就寝時刻は平日休日共に公立幼稚園教諭が一番早く、私立幼稚園教諭、保育所保育母の順になっている。もっとも、その差は約三分程であるし、公立幼稚園の平日及び保育所の休日の偏差が大きいため、それぞれ早寝のものと同寝のものと同相当開きがあるわけである。従って公立幼稚園教諭は早寝で保育所保育母が遅寝であるといがいには云えないであらう。

2、公私立幼稚園教諭、保育所保育母のいずれの場合でも、休日の方が平日よりも平均一〇分前後早く寝ている。

3、起床時刻はいずれの場合でも、休日の方が平日よりも三〇分ないし一時間くらい遅くなっている。また休日の方が平日よりも偏

第2表

	平	日	休	日
就寝時刻	公幼	時分 10.39(41.01)	時分 10.31(36.69)	
	私幼	10.49(38.5)	10.37(38.83)	
	保	11.15(29.25)	11.04(40.05)	
起床時刻	公幼	時分 6.39(29.4)	時分 7.14(43.86)	
	私幼	6.39(35.62)	7.24(36.08)	
	保	6.39(33.31)	7.42(47.52)	

第3表

	平	日	休	日
睡眠時間	公幼	時分 7.44	時分 8.43	
	私幼	7.56	8.47	
	保	7.24	8.38	

註 ()内は平均偏差(M・V)を示す
公幼は公立幼稚園教諭
私幼は私立幼稚園教諭
保は公私立保育所保育母を示す
(以下同じ)

差が大であるから、平日は皆が大体揃って六時三〇分から七時頃に起るのに対して、休日は各自まちまちの時間に起るものと考えられる。

4、また睡眠時間は第三表のように、公私立幼稚園教諭、保育所保育母の差はわずかであるが、保育所保育母が平日休日共一番短くなっている。平日と休日とを比較すると、いずれも休日の方が約一時間程長くなっている。

二、出勤・退出時刻及び勤務時間について

公私立幼稚園教諭及び保育所保育母の出勤時刻、退出時刻、勤務時間の平均値及び平均偏差を示すと第四表及び第五表のようになる。

この表から、

1、出勤時刻はいずれも

第5表

	勤務時間	
	A V.	M. V.
公幼	時間分 9.00	54.43
私幼	10.03	84.12
保	9.27	67.10

第4表

	出勤時刻	退出時刻
公幼	時分 8.30(14.01)	時分 5.30(52.99)
私幼	8.46(12.16)	6.49(79.75)
保	8.33(24.16)	5.59(53.68)

偏差が少い。従って、大体皆が揃って八時三〇分頃に出勤している。私立幼稚園教諭が他と比較してやや遅い。

2、退出時刻は出勤時刻に比して、きわめて偏差が大きい。従って、各人でかなり異なる。三者を比較した場合、私立幼稚園教諭が最も遅くなっている。しかし、これも偏差が特に大きいので、実際には、早く退出する者と遅く退出する者と、かなりの時間差があるように思われる。

3、勤務時間については、右記(1、2)からも明らか様様に、私立幼稚園教諭が最も長く約一〇時間、次が保育所保育の九時間二七分、一番短いのが公立幼稚園教諭の九時間となっている。もっとも私立幼稚園の場合は偏差が非常に大きいので、園によって、或いは人によってかなり差があるようであるから、一がいには云えないかも知れない。以上の如く、一番短かな公立幼稚園

の場合でも、労働基準法の八時間を一時間以上まわっているから、保育者の勤務時間が、他の職業に比して短いと考えるのは当たらない。文部省の調査によれば、小・中学校教員の勤務時間は共に九時間一九分、高等学校教員は八時間二三分となっているから大体小・中学校教員の勤務時間と類似している。

三、平日の生活内容の一般的傾向

公私立幼稚園教諭及び保育所保育一人当りの一日の平均生活時間を示

第6表

		職務時間		非職務時間		非(その他)		準職務時間		合計	
		時間(分)	%	時間(分)	%	時間(分)	%	時間(分)	%	時間(分)	%
公幼	平日	493.3	34.3	879.2	61.1	10.5	0.7	57	3.9	1440	100
	休日	72.3	5.0	1301	90.4	57.7	4.0	9	0.6	1440	100
私幼	平日	537	37.3	796.4	55.3	38.6	2.7	68	4.7	1440	100
	休日	23	1.6	1320	91.7	97	6.7	0	0	1440	100
平均	平日	515.2	35.8	837.8	58.2	24.5	1.7	62.5	4.3	1440	100
	休日	47.7	3.3	1310.5	91.1	77.3	5.3	4.5	0.3	1440	100
保	平日	530	36.8	823	57.2	19	1.3	68	4.7	1440	100
	休日	126	8.8	1240	86.1	74	5.1	0	0	1440	100

すと第六表の様になる。この表からいちじるしい事実を挙げると、

1、職務時間は三者の間であまり差がないが、一日の全生活時間に対する割合からみると、私立幼稚園教諭が三七・三%で最も多く次が保育所保育の三六・八一%、番少いのが公立幼稚園教諭の三四・三%となっている。私立幼稚園と保育所の差は僅少である。

2、非職務時間は、職務時間の順とは逆で、公立幼稚園教諭が六一・八%で最も多く、保育所保育の五八・五%がこれに次ぎ、私立幼稚園教諭が五八・〇%で一番少くなっている。私立幼稚園と保育所とは殆んど差がない。

3、準職務時間である通勤時間は、三者の間で、余り差がなく、いずれも大体一時間前後で、一日の生活時間の四%余りである。

4、既述の勤務時間(第五表)と職務時間の差を見ると、私立幼稚園教諭が最も多くて、六六分となり、次が公立幼稚園教諭の四六・七分で、一番少いのが保育所保育の三七分である。この時間は幼稚園・保育所に勤務してはいるが、職務以外のことに費されている時間である。この中には勿論、休息の時間のように必要なものもあるが、必要以上の無駄な時間があるとすれば考えなければならぬ。

四、休日の生活内容の一般的傾向

第六表によって見ると、

1、休日においても、時間は余り長くはないが、保育者の職務活動が行われていることを知る。保育所保育が最も長く、二時間六分で、全生活時間の八・八%、次いで公立幼稚園教諭の二時間一分二五・〇%、私立幼稚園教諭の二三分、一・六%の順になっている。

2、当然のことではあるが、非職務時間は一日の大部分を占めており、私立幼稚園教諭が九八・四%で最も多く、次が公立幼稚園教諭の九四・四%、一番少いのが保育所保育の九一・二%となっている。

3、準職務時間である通勤時間については、公立幼稚園教諭のごく一部の人々が出勤しただけで、他は出勤してないので殆どない。

5、次にこれらの生活時間の内容について、具体的に見てみよう。まず職務時間の内容について、一人当たり平均時間を示すと、第七表となる。

この表に見られるように。

1 公立幼稚園教諭においては、直接間接に幼児を保育指導する時間が、そのなかばを占め、一日平均四時間三分で四九・三%、次に多いのは「園務」の三時間八分、三八・一%で、総勤務時間の約三分の一に当たっている。ついで「準備」の三三分で六・七%、「研修」の二九・三分、五・九%という順になっている。

2、私立幼稚園教諭では、「保育指導」が三時間五七分で、四四・一%となり、公立幼稚園に比し、やや少くなっているが、これに対し、「園務」が四時間二〇分、五〇・三%とその半ば以上を占め、公立幼稚園より約一時間多くなっている。そして「準備」や「研修」時間が夫々四・一%、一・五%と公立幼稚園より少くなっている。

3、保育所保育の場合は「保育指導」が六時間二三分で、全勤務時間の七二・三%を占め、公私立幼稚園教諭よりも、ずっと多くな

第7表

		平 日			休 日		
		公 幼	私 幼	保	公 幼	私 幼	保
A 保 育 指 導	a 直 保 応	236	222		1		
	b 保 家 訪	4	5		1		
	c 家 訪	3	10		0.3		
	計	243 (49.3)	237 (44.1)	383 (72.3)	2.3 (3.2)	0 (0)	0 (0)
B 園	d 組 務	46	44		9		
	e 組 業	40	57		9		
	f 職 会	28	27		9		
	g 園 務	37	22		11		
	h 園 業	37	120		4		
	務 計	188 (38.7)	270 (50.3)	109 (20.6)	42 (58.1)	0 (0)	3 (2.4)
C 準 備	33 (6.7)	22 (4.1)	33 (6.2)	8 (11.1)	15 (65.2)	3 (3.2)	
D 研	i 内 研	2	4		0	0	
	j 外 研	4	0		0	0	
	k 通 教	0.3	0		0	0	
	l 講 夜	9	1		3	0	
	m 自 研	14	3		17	8	
	修 計	29.3 (5.9)	8 (1.5)	5 (0.9)	20 (27.6)	8 (34.8)	119 (94.4)
合 計	493.3 (100)	537 (100)	530 (100)	72.3 (100)	23 (100)	126 (100)	

っているのは、保育所の性格から考えて当然であると言えよう。「園務」は一時間四九分で二〇・六％と公私立幼稚園に比して大分少くなっている。「準備」三三分。六・二％で余り差がない。「研修」は私立幼稚園教諭と大差ないが、公立幼稚園教諭に比べると少い。

4、休日に於ける職務活動の主なものは、公立幼稚園では園務が最も多く、次いで研修準備、保育指導の順になっている。私立幼稚園では、保育指導及び園務は無く、準備、研修の順であり、保育所では講習会の出席等の研修時間が最も多く次いで準備、園務の順になっている。

5、保育者にとって、幼稚園・保育所の仕事の重なるものは何と云っても、直接幼児に触れて保育をする時間で、事実この時間が最も長い。次は担任の組や、園全般に関する事務や作業の時間である。この両者のために、準備時間や研修時間はごくわずかになっている。

六、次に非職務時間の内容について、一日一人当り平均時間を示すと、第八表の通りである。この表によれば、

第8表

		平 日			休 日		
		公 幼	私 幼	保	公 幼	私 幼	保
い 常	イ 眠	464	476	444	523	527	518
	ロ 食	58	62) 120	78	74) 169
ハ 身	76	74	65		88		
規	計	598 (68.0)	612 (76.8)	564 (68.5)	666 (51.2)	689 (52.2)	687 (55.4)
ろ 家 勞	ニ 炊	53	41		115	98	
	ホ 買	13	4		43	35	
	ヘ 裁	17	10		54	43	
	ト 洗	5	2		46	29	
	チ 掃	14	4		43	33	
	リ 乳・子	12	8		21	6	
	ル 雑	40	22		49	50	
	計	154 (17.5)	91 (11.4)	124 (15.1)	371 (28.5)	294 (22.3)	299 (24.1)
は 文	オ 新	11	10		17	21	
	ワ ラ	18	14		39	17	
	カ 読	20	7		36	44	
	ヨ 書	7	5		7	3	
	タ 趣	10	1		16	12	
	レ 宗	1	0.4		9	3	
化	計	67 (7.6)	37.4 (4.7)	73 (8.9)	124 (9.5)	100 (7.6)	103 (8.3)
に 社	ソ 会	1	5		8	37	
	ツ 訪	9	8		39	58	
	ネ 手	3	2		5	2	
	ナ 組	1	0		0	0	
会	計	14 (1.6)	15 (1.9)	14 (1.7)	52 (4.0)	147 (11.1)	65 (5.3)
ほ り	ラ 休	42	34		53	47	
	ム 娛	1	0		24	30	
	ウ 運	0.2	3		6	3	
	キ 喫	3	4		5	10	
	計	46.2 (5.3)	41 (5.2)	48 (5.8)	88 (6.8)	90 (6.8)	86 (6.9)
合	計	879.2 (100)	796.4 (100)	823 (100)	1301 (100)	1320 (100)	1240 (100)

1、三者いずれの場合でも、保育のある平日よりも、休日の方がはるかに非職務時間が多い。

2、日常の習慣として毎日行われている常規の時間は、すべての職務時間・非職務時間を通じて、特に目立って多い。それは、この中に睡眠時間が含まれているからである。

3、常規の時間の中で睡眠時間が、平日よりも休日に於て約一時間長い事は前に述べたが、「食事」「身仕度」の時間も休日の方が平日より多くなっている。

4、「常規」に次いで多いのは、平日休日共、家事労働の時間であるが、休日の方が平日よりもはるかに長い。その差が特に著しいのは、炊事、裁縫、洗濯、掃除の時間である。

5、各時間の一日中の割合についてみると三者いずれの場合も、常規時間の絶対値が、休日の方が平日より多いにもかかわらず、割合から言うとかえって休日の方が減っている。それは、裁縫・洗濯等の家事労働や、読書・趣味の文化的生活、他家の訪問・来客の応接、会合・集会への出席などの社会的生活、映画その他の娯楽、休息雑談などのリクリエーションが、いずれも平日より多くなっているからである。平日では時間がないために、これ等が僅かの時間しか行われておらず、これが大部分休日においてなされている事がわかる。

6、公立幼稚園教諭及び保育所保育母は共に、平日休日共、常規、家事労働に次いで文化、リクリエーション、社会の順になっているが、私立幼稚園教諭では平日は、常規、家事労働に次いでリクリエーション、文化、社会の順で、休日では社会、文化、リクリエーションの順になっている。

ヨンの順になっている。

む す び

以上、保育者の一日の生活を時間量の面から考察して来たが、これ等の結果からみると、保育者の一日平均の実質的な勤務時間は九時間を超え、私立幼稚園の場合十時間にも及んでいる。それにもかかわらず、良い保育をするのに必要な研修時間が、あまりにも少く、勤務時間の三分の一或いはそれ以上も、事務やその他の雑務に費されている。この事から考えると、たしかに保育以外の負担が多く、そのために保育に必要な時間がけずられているようである。したがって保育者の負担を軽くするために、より合理的な、より能率的な時間の組合せを考えると、保育者間の分担協力を適切緊密にすると云うような工夫も必要であろうし、事務職員において事務作業の一部をまかせる事や、保育者の定員増加により、一人当りの受持幼児数を減らすことも考える必要がある。しかしこれを今すぐ解決する事は困難であるから、先ず私達は如何にすれば、よりよい保育をなす事が出来るかという点から、現在の生活、現在の勤務を反省し、無駄をはぶき、一つの園及び施設の中で互に協力し、保育の面に於ても改良を加えるなど、各面にそれぞれ生活の工夫をこらすことも大切であろう。

○この調査に当って、お忙しい中にもかかわらず、面倒な記録をとって御協力下さいました各幼稚園・保育所の先生方に厚く御礼を申し上げます。

(参考文献)

(25頁に続く)

猿	6
きりん	3
熊	3
ライオン	2
ペンギン	1
幼稚園で動物で遊んだ話	17
幼稚園の動物を見に来てほしいという話	4
動物についての質問	4
動物園につれて行ってほしいというもの	6
自分の家の家畜に対する関心の大きくなったもの	8
家庭で動物遊びをよくするようにしたもの	7
動物の玩具をうちでもほしがるもの	11
○協力遊びの向上に関する評価	
此処に試みた一聯の動物遊びの経過の後に子供ほどの位協力する事を経験しているだろうか。を正確に評価する事は極めて困難である。ただ子供達の一人一人が保育室全体の一つの遊びの中の役割の一端を荷うという経験をなし、又全体の協力によって出来上った一つの遊びのまとまりを見たという事は確であり、その経験が次には更に高い段階への協力の一つの踏石となっているであろう。	
最後に、注意せねばならぬ事は、同じ動物の玩具で同じよ	

うに指導しても、子供の遊びの発展する形は、此処にあらわれたものとは違ったものになるだろうという事である。誘導法の原理は同じものであろうとも、遊びの発展は、それぞれのグループに応じて違ったものになるのは当然である。そして集団的な誘導保育において目指されるものは結局、その中の一人一人の子供に何か得るものがあった始めて意味があるのであり、従って全体の形にのみとらわれると誤まちを犯す事になるからこの点をよく注意せねばならない。

(51頁より続く)

金井達蔵 教員の生活時間構造(「児童心理」第六卷第十二号)
 文部省調査局統計課 小・中・高等学校教員の職務活動時間の
 実態(「教育統計」第二十七号)
 堀内敏夫 教師の精神衛生(「児童問題新書」精神衛生) 昭和
 二十五年 金子書房)
 愛育研究所・社会事業研究所 本邦保育施設に関する調査 昭
 和十七年)
 西本 脩 保育者の精神衛生(「幼児の教育」第五二卷第一〇
 号 第二二号)